

動物実験に関する検証結果報告書

国立大学法人 京都工芸繊維大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2026年3月

国立大学法人 京都工芸繊維大学

学長 吉本 昌広 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会

理事長 小倉淳郎

対象機関：京都工芸繊維大学

申請年月日：2025年7月30日

訪問調査年月日：2025年10月31日

調査員：斉藤美知子、佐加良英治

検証の総評

京都工芸繊維大学は、京都高等工藝学校と京都蚕業講習所を前身とし、120年以上の歴史を持つ国立の工科系大学である。京都府内に松ヶ崎、嵯峨、福知山に3つのキャンパスを有し、工芸科学部、大学院工芸科学研究科の下に機械、情報、建築、デザイン、生物、化学、繊維など多様な分野を展開し、伝統と先端技術の融合による教育・研究を行っている。

動物実験は、応用生物学域において、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下、「基本指針」という。）」におおむね適合した「京都工芸繊維大学動物実験規則（以下、「動物実験規則」という。）」に基づき、適正に実施されている。実験動物の飼養保管は2024年に新設された飼養保管施設において、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」を遵守し、おおむね適正に実施されている。動物実験に関する自己点検・評価は2010年より毎年実施しており、その報告書を大学の動物実験に関する情報サイトで公開していることは評価できる。他方、実験動物の飼養保管に関する詳細なマニュアル等の整備が十分でなく、速やかな整備を期待する。今後も、動物実験等に関する最新情報の入手に努め、適正な動物実験を推進し、充実した機関管理体制を構築されたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験規則は、2008 年に策定されて以来、適宜改正が行われている。最新では 2024 年に改正が行われており、その内容は基本指針及び飼養保管基準に則している。また、動物実験規則を補完する「京都工芸繊維大学動物実験実施マニュアル（以下「実施マニュアル」という。）」「京都工芸繊維大学 実験動物飼養保管施設利用内規（以下「内規」という。）」が整備されている。したがって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。<input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験規則には、一部文言が不足している部分や、文言の修正が必要な箇所が散見されるため、国立大学法人動物実験施設協議会（以下、「国動協」という。）、公私立大学法人動物実験施設協議会（以下、「公私動協」という。）が提案、公開する最新の機関内規程雛形を参考に改訂されたい。また、動物実験規則、実施マニュアル、内規などの内容を整理し、整合性を図られたい。</p>

2. 動物実験委員会

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験規則に則して動物実験委員会が設置されている。委員構成は、基本指針が定める 3 要件を満たし、かつ各要件に複数委員を配置している。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。

<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験規則において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続が規定されており、これらの手続に必要な動物実験計画書などの様式が整備されている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 安全管理に注意を要する動物実験のなかで、実施マニュアルや内規に基づき、実施できない動物実験の項目は、動物実験計画書から削除することが望ましい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「京都工芸繊維大学遺伝子組換え生物等使用等管理規則」が定められ、遺伝子組換え実験安全委員会が設置されている。放射線使用実験、感染実験は、実施マニュアルや内規に禁止する旨が記載されている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

放射線使用実験、感染実験を今後も実施しないのであれば、動物実験規則においても禁止する旨を規定することを検討されたい。有害化学物質を用いた動物実験を行う場合は、対応する学内規程やマニュアルの周知に努められたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験規則に飼養保管施設の要件が定められ、実験動物管理者が配置されている。一方、実験動物飼養保管に関するマニュアルが整備されておらず、その内容を補完する役割の内規と実施マニュアルの記載事項は飼養保管マニュアルとして十分ではない。また、実施マニュアルに記載されている実験動物逸走時の対応や地震、火災等の緊急時の対応に関する記載も十分ではない。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

検疫、順化を含め、飼育環境、微生物モニタリングなど、より詳細な飼育管理・健康管理に関する実験動物飼養保管に関するマニュアル（標準操作手順書）を整備されたい。また、緊急時対策については、国動協及び公私動協が示す「緊急時対応マニュアル策定のための手引き（指針）・2018 版」などを参考に、動物の逸走時の対応マニュアルや緊急時の対応マニュアルを作成するか、内規並びに実施マニュアルの当該事項の内容を充実させることを検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

新たに飼養保管施設を設置し、今回の外部検証を経て、適正な動物実験の実施体制を構築しようとする姿勢は評価できる。また、他機関で行う動物実験に関しても、計画書を提出させ、動物実験委員会において審査を行っている点は評価できる。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験委員会は、動物実験規則に基づき動物実験計画の審査を適正に行っており、議事録も作成され、適正に保存されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会による動物実験の実施結果に対する助言を、学長に対して行えるよう工夫されたい。また、安楽死方法や人道的エンドポイントについては、最新情報を入手し、審査に反映させるとともに、教育訓練を含めて関係者に周知することを検討されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験計画書の審査は基本指針や動物実験規則に則して行われており、2024 年度は 10 件が承認された。動物実験実施状況・結果報告書及び動物実験の自己点検票の提出率は 100%である。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>2024 年度は、病原体や有害化学物質を用いた動物実験、動物に対する放射線照射実験や放射性物質を用いた実験は実施されていない。遺伝子組換え動物を用いる実験は、これまで安全に実施されている。遺伝子組換え実験安全管理委員会には動物実験委員会の委員が含まれ、情報共有されている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>飼養保管施設は 2024 年に設置され、小規模ながらも衛生管理に配慮して運用されている。複数名配置されている実験動物管理者は、それぞれ飼養保管基準を遵守した活動を行っている。また、逸走防止対策としてネズミ返しや捕獲網も常備されている。さらに、微生物モニタリング検査は定期的実施している。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>飼育室の環境条件、健康管理の方法、逸走時の具体的な対応、施設・設備の保守点検などにつ</p>

いて、実施マニュアルもしくは内規での記載の充実を検討されたい。また、定期的に微生物モニタリングが行われているが、他施設の事例などを参考にして検査項目や実施方法について再検討することが望ましい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設は基本指針や飼養保管基準などに従い適正に維持管理されている。また、2024 年の飼養保管施設設置時には、動物実験委員会の視察が行われている。さらに、関係者以外の者が立ち入らないように、カードキーにより入退室が管理されており、その記録も適切に保存されている。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験委員会による飼養保管施設の視察などは、定期的に行うことを検討されたい。また、飼養保管施設内の温度や湿度の記録の保存を徹底されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

年に 1 度、学部学生を対象に教育訓練が実施され、その記録や受講者の記録等は整理・保存されている。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

実験動物管理者は、公益社団法人日本実験動物学会が主催する実験動物管理者等研修会などを受講することを検討されたい。また、教育訓練の有効年数を定めるなどとし、動物実験実施者や

飼養者などに常に最新の情報が提供されるように、定期的な再教育の実施を検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

自己点検・評価は、2010 年度から毎年実施され公開されている。また、国動協、公私動協が要請する情報項目もおおむねウェブサイトに掲載されている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

今回の検証結果報告書についても速やかに公開されたい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

国動協未加盟校で情報の少ない状況で、動物実験委員会や飼養保管施設の管理者などが中心となり、担当事務の積極的な支援の下、初めての受検にもかかわらず、おおむね基本指針に適合していたことは評価できる。また、最新の動物実験に関する情報を入手するために国動協に入会することを検討されたい。